

平成25年度第一回森林環境保全基金運営委員会 議事録

開催日時 平成25年5月17日(金) 13時30分～15時30分
開催場所 高知共済会館 4階「浜木綿」
参加者 (委員)
根小田渡委員(委員長)、堀澤栄委員(副委員長)、片岡桂子委員、
門田芳穂委員、川村純史委員、窪田真一委員、林須賀委員、
山中國保委員
(事務局：高知県林業環境政策課)
高橋課長、井澤課長補佐(木の文化担当)、福田主幹、吉田技師
(事業担当課)
鳥獣対策課：大野主任
林業改革課：吉門主任
木材産業課：山崎主任、大家主査
欠席 時久恵子委員

1. 林業環境政策課長挨拶

2. 議事

【1】平成24年度森林環境税活用事業の実績報告について

～みどりの環境整備支援事業・公益林保全整備事業(林業改革課)～

(吉門主任) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

みどりの環境整備支援事業は、当初予算ベースでは予算に対する決算の比は122%とのことですが、補正(486万円)を含めると何%になりますか。

(吉門主任)

補正を含めると99.6%になります。

～森林保全ボランティア活動推進事業(林業環境政策課)～

(福田主幹) 資料に基づき説明。

(片岡委員)

3-2の成果指標(アウトカム)の中間値が17.5haで実績値が6.68haとなっていますが、
どういう理由なのでしょう。

(福田主幹)

森林保全ボランティアの事業ですが、当初各団体から合計17.5ha間伐ができるとの申請
をいただいていたが、最終的に間伐ができた面積が6.68haということになったため
です。

(根小田委員長)

当初の面積17.5haから、6.68haに減った理由は。

(福田主幹)

詳しくは聞いていないのですが、(事情があって)間伐ができなくなった場所があったも
のと考えています。

～シカ被害特別対策事業(鳥獣対策課)～

(大野主任) 資料に基づき説明。

(堀澤副委員長)

4-2の成果について、15日間で2頭ということなのでしょう。

(大野主任)

15日間で捕獲したのは1頭となります。もう1頭は、昨年製作したワナによって捕獲し
たものです。

(堀澤副委員長)

昨年のワナというのは、何日間で1頭捕獲できたのでしょうか。

(大野主任)

正確な資料はこの場に持ってきていませんが、狩猟期が始まって数日後に設置し、運用

期間は100日間はあったと思います。ワナの中に草などのエサを入れましたが、ワナの近くまでシカは来るが、なかなかシカがワナに入らなくて、1頭しか入りませんでした。今年のワナについては、狩猟が上手な農家の方に渡して、実際の畑で運用していただきました。捕獲した1頭のシカ自体は小さかったが、ワナは特に問題なく作動しました。

(山中委員)

2年間に渡って色々試行錯誤され、改良もされてきたと思うが、檻そのものにシカが入らず、そのような実態が明らかになってきたという状況ではないでしょうか。

(大野主任)

鳥獣対策課では、本事業ではないが、「個体数調整事業」で狩猟期に獲れたシカに対して捕獲報償金をお支払いしている。捕獲報償金を支払う際に、猟法まで記載してもらっているが、ワナで獲った方、箱ワナで獲った方は、旧大正町を中心にたくさんおいでになる。単純に置いて山の中委員の言われるように獲れません。防護柵等を農地に張り巡らせて、エサのない状況でワナを置いたりすれば入ってくるといった事例も耳にしています。箱ワナ自体が獲れにくいというわけではないと思います。

(根小田委員長)

森林環境保全基金を使ってやる事業があって、それ以外の県の予算でやっている事業もあり、市町村がやっているものもあるわけですか。

(大野主任)

シカに限って言うと、市町村事業は若干ありますが、ほとんど県の方で支援させていただいている。

(根小田委員長)

県の予算で市町村が実施していると。

(大野主任)

はい。市町村では、狩猟期以外のシカの捕獲について、捕獲報償金の支払いをしている。

(根小田委員長)

狩猟期以外の捕獲について、市町村で支払っている。

(大野主任)

この分については、8割の特別交付税の措置がありますので、実質、市町村費の支払い

はだいぶん圧縮されることになります。

(根小田委員長)

お願いですが、シカ対策は、実施しても無駄ではないかと印象を強くもってしまう。

このようなやり方が有効でないならば、別のやり方を考えなければならないわけで、そういった状態を続けてやっても仕方がない気がします。県全体でやられることだとは思いますが、シカ対策全体の総括的な評価をこの場でも言っていただかないとよく分からない。山中委員も言われるように、どこに課題があり、何が問題なのか、檻でやるのが有効なのかどうか、そこらへんも分からないし、シカが檻に入らない理由は、他にエサがたくさんあるのでわざわざ檻に近寄って来ないのか、その辺がよく分からない。

狩猟をやっている方の人数が増えているとか、高齢化しているとか、そういう問題もある訳でしょう。全体が分かるような説明を是非、機会があればやっていただきたい。

(大野主任)

県全体の捕獲頭数だけで言いますと、県全体では3万頭の計画を打ち立て、事業の運用をさせていただいている。実際の捕獲頭数は狩猟期と有害駆除合わせて、H23年度が13,468頭です。H24年度は、まだ集計をしている途中だが、15,200頭は獲れるのではないかと想定している。

(根小田委員長)

森林環境税でやっている事業（シカ対策）というのは、県が一生懸命言っても、市町村はそれ以外の事業をやるのが主になっていて、ここまでやる力がない。市町村の参加数を見たら分かりますよね。呼びかけても参加してこないわけだから、それならば、こういう事業をやっても無駄なのかなあという感じもします。是非、検討していただきたい。

(山中委員)

これは森林環境税を使ってではない事業だとは思いますが、今年、くくりワナの講習を森林組合と連携してやられましたよね。これは、今までは積極的にやられたことはなかった取り組みだと思うのですが、これは効果があり、連続性のある十分な取り組みだと思う。これは、個人個人が時間を取ればワナを置くことができる。檻になると90kgぐらいあり、これを一般化するというのは、現実問題として非常に難しい状況ではないかなあと思います。今年取り組まれたくくりワナなどは、総括的にいい事業をされているなあと思いました。

(高橋課長)

事務局から。委員さんの言われることはこちらとしてもよく分かります。シカの問題は

深刻な問題で、色々な対策を打っています。今回の説明だけでは、評価をすることが難しいと思いますので、イメージとしては県全体でやっている、こういう施策をやっている、それに対してこういう効果が上がっている、それぞれの効果、問題点を整理して、各委員さんにお話ししたいと考えています。よろしくお願いします。

(山中委員)

シカ問題は、根本的には、森林環境保全基金を使うことではなくて、国・県がやるべきことだと。これは我々の被害が非常に大きくなったときからの基本的な考えです。

森林環境保全基金として、このままで放っておいて良いのか、ということが出て、先導的、試行的に取り組むということでこれが始まったと、我々は理解しています。根本的に、シカの食害について、森林環境保全基金を使い、解決するというそういう狙いではなかったと私は理解していますけど。

(高橋課長)

その点がわかるように、少し判断材料という形で資料を後から回すようにしたい。

(窪田委員)

今年、補正で多額のお金がついたのではないかと。使い切れないくらいの補正が。

(大野主任)

余談ですが、3年間の補正で3億弱の予算が国から来ています。これは、複雑な運用の仕方をしなければなりません。高知県では1頭8千円の捕獲報償金を払っているところがほとんどです。今回の国補正をもとに、県は基金を作りましたが、その捕獲報償金8千円に、あと5千円上乗せした場合、その上乗せ額をこの基金から支払うことにしています。この事業は3年間となります。

(窪田委員)

市町村は、そっちに行くことになる。国の予算を残すわけにはいかないので。優先順位がそっちになるのではないかと。

(堀澤副委員長)

結局は捕獲頭数が増えないと使い切れないということですよ。

(大野主任)

捕獲頭数は、年々右肩上がりが増えていっている状況にはあります。

(窪田委員)

ただ、毎年1万5千頭前後で動いていては、理想の状態に届かない。計画では、年3万獲らないと適正頭数にならない。それが1万何千頭では、県全体では、まだ、理想の状態にならないと思う。

僕ら山の人間としては、シカを何とかせんことには、新植が本当にできない。大変な状況になっている。林齢構成が県としても無茶苦茶になっている。今日の高知新聞の福田さん記事ではないですが、みんながみんな長伐期にしたら、高知県では若い林がなくなってしまう。おおごとだと思う。なんとかするようにお願いします。

～こうち山の日推進事業(林業環境政策課)～

(福田主幹) 資料に基づき説明。

(堀澤副委員長)

5-1の方ですが、積極的に参加している団体が5団体程度に留まっているということですが、元々参加していただいている団体があるのに、伸びていっていないということなのか、それとも、ボランティア団体があまりないということでしょうか。

(福田主幹)

ボランティア団体はあります。こうち山の日ボランティアネットワークの加入している団体は他にもありますが、積極的に参加している団体は、5団体ほどとなっています。その底上げも必要ではないかと思っています。

ボランティア団体の中には、こうち山の日ボランティアネットワークの事業での参加でなく、山の日推進事業の方で活動を行っている団体もあります。

～山の学習総合支援事業(林業環境政策課)～

(福田主幹) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

6-3は、(学校からの)要望はないのでしょうか。

(福田主幹)

22、23年度も要望調査を実施しましたが、窪川高校と鶯ヶ池中学校。24年度は、窪川高校しかありませんでした。要望は少ないですし、他事業でも実施できます。特に小中学校は、山の学習でも同じ事ができます。確かにうまくマッチングすれば、良い事業だと思う

のですが、マッチングがどうしてもうまくできませんでした。

(根小田委員長)

学校林自体はたくさんありますか。

(福田主幹)

学校林自体は、122箇所、1500haほどの面積があると聞いていますが、活用できる場所は少ないのではないかと考えています。

(根小田委員長)

放置されているのでしょうか。

(福田主幹)

放置されている場所もあったり、整備されている場所もあったりもします。別の事業、造林事業でやっているところもあると思います。1,500haあるが、県有林はこの学校林等整備事業ではできません。当事業に合致した場所が少ないのではないかと考えています。また、この事業を使ってやれるという認識も少ないかもしれません。

(窪田委員)

農業高校が持っている山は県有林になるので、この事業が使えないという考えか。

(福田主幹)

窪川高校の山は町有林です。農業高校の山が県有林なのかは把握していません。

(窪田委員)

農業高校が知っていれば、この事業にとびつくと思う。私の会社では入札で落札し、農業高校の山を整備している。道をつけたり、間伐をしたり、順次実施している。県立なので、使えないかと思うともったいなくて。

(福田主幹)

窪川高校は町有林なので、町が申請することで実施できています。おそらく、農業高校の山は、県有林なので採択できないと思います。

(窪田委員)

林業改革課の方に教えていただきたい。県有林でも、作業道を付けて間伐をすれば、国費の補助はもらえるんですよね。

(吉門主任)
もらえます。

(窪田委員)
国費だけもらっても、ha 当たり 30~40m³ 出せば、30 万くらいあるわけだから、せめてもらえばと。県費で全てやるのはもったいないので。申請の仕方など、学校側は全く知らないで、マニュアルを作ってもらえないだろうか。教えてあげたいので。

(吉門主任)
学校での県有林。造林事業の場合、細かい色々な補助事業上の採択条件が・・・。

(窪田委員)
経営計画の話があるけれど、農業高校では、まとまった山があるので、採択基準には合う。(申請書の) 作り方の指導とかをしてあげないと、教育委員会は全く知らない。勿体ないので、話をしてもらいたい。

(吉門主任)
わかりました。検討させていただきます。

～環境学習推進事業(生涯学習課)～

(福田主幹) 担当課に代わり、資料に基づき説明。

(根小田委員長)
高校生の研修や合宿は各校から何人か生徒が出てきて、一緒にやっているのでしょうか。

(福田主幹)
8月1日から3日まで室戸青少年の家での研修は、全員(6校18人)で泊まり込み、実施しています。(各校の取り組みは)各校で行っていますが、大方高校と幡多農業高校については合同で行っています。

～森林環境保全事業(高等学校課)・人づくり推進事業(森づくり推進課)～

(福田主幹) 担当課に代わり、資料に基づき説明。

(堀澤副委員長)

8-1 で目標より実績が上がったことで、よい結果に結びついた要因というものはなんでしょう。

(福田主幹)

継続して事業を実施していますので、色々改善して、生徒さんの取り組み、先生方の取り組みなど、色々なところに視点が向いています。継続することで効果があがっていると考えています。20回の目標が、実績で38回となっています。森林環境保全基金を活用していない森林環境教室や出前講座なども入っていると思いますが、生徒が繰り返してやっている、学校がすごくいいサイクルで回っているという感じがしています。

～森づくりへの理解と参加を促す広報事業(林業環境政策課)～

(福田主幹) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

(机の資料を差しながら) パンフレットとチラシはこれでしょうか。

(福田主幹)

24年度予算の内容が決定した後に、2月、3月に委託事業を実施し、パンフレット1万、チラシ1万作らせていただきました。4月の当初に、銀行、コンビニなど色々なところを通じて、配らせていただきました。森林環境税を使ってどのようなことを実施しているかを見開きのパンフレットで紹介するようにしています。特に公益林保全整備事業で1億円にかけておりますので、そちらの方を広く広報する形にしています。

(根小田委員長)

25万円で済んだという理由を聞きもらしたのですが。

(福田主幹)

事業の中で報告書を委託事業で作成することで予算を計上しておりましたが、その分を執行していません。委託に出さずに直接やった方が、また24年度の実績を入れ、20年度から24年度の5カ年間の報告書を作成した方がいいであろうということで、切り替えさせていただきました。もともと単年度の報告書をイメージしていたと思うのですが、やはり5カ年間で何をやったかが重要だと思いますので、そちらの報告書に変えさせてもらう意味でも、自力で作らせていただくことにしました。

(根小田委員長)

紙にせず、ネット上で。

(福田主幹)

もちろんネット上で。冊子にするよりもネットが最近見ていただけますので。作成した後に、もちろん、委員の皆さまにも紙になりますけど、お配りさせていただきたいと思っています。広く、PDFとして作成します。

(根小田委員長)

外注はしないということですね。

(福田主幹)

外注はしません。前任者が作成途中ではありますが、かなりよい報告書を作っていますので、外注に出すまでもないのかなあと。

～運営委員会開催費(林業環境政策課)～

(福田主幹) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

当初予算とのギャップは。

(福田主幹)

当初予算と比較し、森林環境税の委員会 7 回計上して約 70 万円、その他事務費、委員さんの旅費や部屋を借りる使用料で、合計約 200 万計上していました。実績が少なかったのは、回数が少なかったのもありますし、使用料等も安く抑えることができたことも理由となります。

～「木の文化賞」事務費(林業環境政策課)～

(福田主幹) 資料に基づき説明。

質疑なし。

～木の香るまちづくり推進事務(木材産業課)～

(山崎主任) 資料に基づき説明。

質疑なし。

～希少野生動植物保護対策事業(環境共生課)～

(福田主幹) 担当課に代わり、資料に基づき説明。

質疑なし。

～排出量取引(CO2)プログラム認証事業(環境共生課)～

(福田主幹) 担当課に代わり、資料に基づき説明。

(根小田委員長)

この事業は、24年度で終了ですよ。

(福田主幹)

25年度から一般財源で行います。元々、プロジェクトの申請は、国も無償でやっていますので、県も無償でやらせていただいております。県の方でやっているのは、新潟県と高知県の2県で、他の県よりは県J-VERの仕組みのおかげで進んでいるのではないかと、認定を採られている件数が多いのではないかと考えています。

(根小田委員長)

全体でないようでしたら、委員の方は、評価シートに記入してください。後で思いついた意見などを記載頂きますので、事務局の方に提出をよろしく願いいたします。

(福田主幹)

25年度に継続しない事業については、斜線を引かさせていただきます。今回の評価は、事業継続という観点のため、評価いただかなくても構いません。ただ、統合した2つの事業、作業安全研修と山の一日先生は、ご意見をいただきますようお願いいたします。

【2】平成25年度森林環境税活用事業の概要について

(福田主幹) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

3のシカ被害対策の金額減の理由は、政府調達についての基準をクリアするためですか。

(大野主任)

県内企業に製造を委託する場合の上限といたしまして2,500万円という金額となります。一般競争入札ではなく、今回の場合はあらかじめ(業者で)試作品を作り、優れた試作品の業者と随意契約を結んで製造をお願いするものです。その場合、上限の金額が2,500万円というものがございまして、この金額を超えることができないということもあり、2,500万円に下げました。

政府調達の関係もあるのですが、3年間同じ相手と契約ができることで、その金額に抑えて調整したということです。

【3】その他

(井澤補佐) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

現地視察の方で、委員の方で要望がありましたら、事務局に、評価シートにメモを同封いただくか、メールなどでお伝えいただければと思います。

ほか、特になければ、今日の委員会を終了いたします。長時間ありがとうございました。

以上で閉会